

平成 2 9 年度

教育委員会点検評価報告書
(平成 2 8 年度対象)

平成 2 9 年 9 月
大鰐町教育委員会

目 次

I	点検・評価の概要	1
II	点検・評価の対象及び方法	1
III	評価委員	1
IV	評価委員会	1
V	平成28年度 大鰐町教育	1
	1 大鰐町が目指す町の姿	
	2 大鰐町教育委員会の基本方針	
	3 平成28年度大鰐町教育方針体系図	
VI	教育委員会の活動状況	3
	1-1 教育委員の構成（平成28年4月1日現在）	
	1-2 教育委員の構成（平成29年3月31日現在）	
	2 教育委員会会議の開催状況	
	3 教育委員の行事等参加状況	
VII	主要施策の点検・評価	7
	1 学校教育の推進	
	2 社会教育の推進	
	3 芸術文化の振興と文化財の保護活用	
	4 生涯スポーツの振興	
VIII	平成28年度 主な事業と経費及び成果等	20
IX	評価委員による点検・評価	24

I 点検・評価の概要

趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律で、教育委員会は、毎年その権限に属する教育行政事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されております。

この法律の規定により、大鰐町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たしていくために教育に関する点検及び評価を実施し、報告書にまとめました。

II 点検・評価の対象及び方法

点検・評価の対象は、前年度に管理及び執行した事務のうち大鰐町主要施策に基づく重点の事務事業を教育委員会が自己評価しました。

- A…達成している
- B…ほぼ達成している
- C…やや達成していない
- D…達成していない

III 評価委員

- ・藤 田 昇 治（元弘前大学生涯学習教育研究センター
兼大学院地域社会研究科准教授）
- ・山 口 裕 子（元小学校校長）

IV 評価委員会

- ① 平成29年7月19日（水）
- ② 平成29年8月 8日（火）

V 平成28年度 大鰐町教育

平成28年度 大鰐町教育

1 大鰐町が目指す町の姿

湯の郷・雪の郷・りんごの郷 おおわに

- ① 美しく・潤いのあるまちを創る
- ② にぎわいと住みやすさのあるまちを創る
- ③ 活力と夢を育むまちを創る
- ④ 豊かな心と学びのまちを創る
- ⑤ 健やかで笑顔のあるまちを創る
- ⑥ みんなで築くまちを創る

（第5次大鰐町総合振興計画）

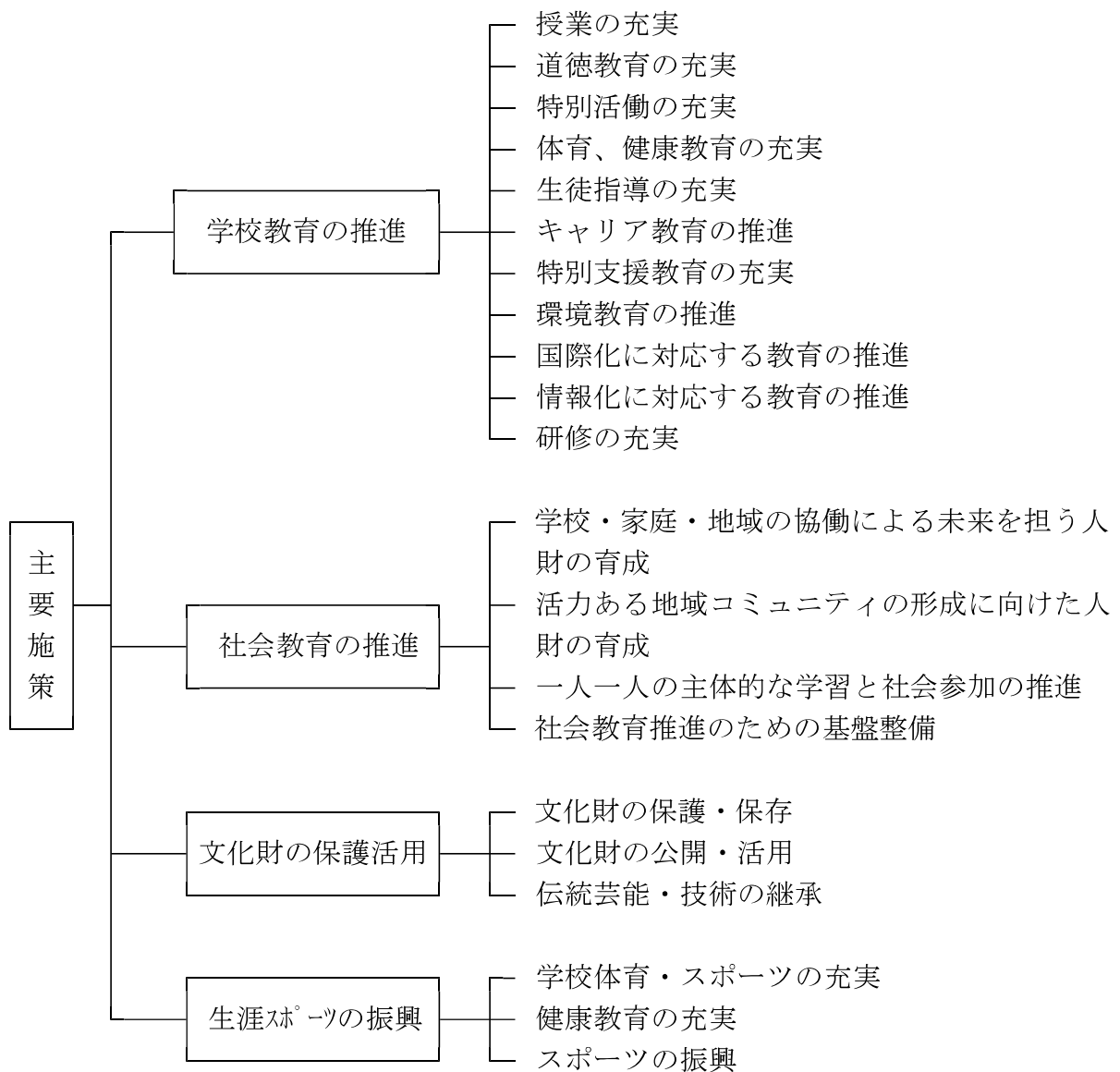
2 大鰐町教育委員会の基本方針

大鰐町教育委員会、その他関係機関・団体との連携を図りながら、町を育てる学力、町に生かせる学力を育てていきます。

大鰐町の未来を創る人財の育成

一人一人が学び、郷土を愛する、心豊かで
たくましい人づくり

3 平成28年度大鰐町教育方針体系図



VI 教育委員会の活動状況

1-1 教育委員の構成（平成28年4月1日現在）

役 職 名	氏 名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備 考
委 員 長	成田 信一郎	H27.12.18 ～ H31.12.17	H27.12.18 ～ H28.12.17	H26.12.25 委員長就任
委 員 長 職務代理者	小 西 祐	H24.10.29 ～ H28.10.28		H24.12.25 委員長職務代理者就任
委 員	貴 田 範 子	H27.7.13 ～ H30.7.12		H23.7.13 就任
委 員	竹 内 初 男	H25.12.25 ～ H29.12.24		H24.9.19 就任
教 育 長	木 田 専 一	H24.10.29 ～ H28.10.28	H24.10.29 ～ H28.10.28	H24.10.29 教育長就任

1-2 教育委員の構成（平成29年3月31日現在）

役 職 名	氏 名	委員としての任期	教育長としての任期	備 考
教 育 長	木 田 専 一		H28.10.29 ～ H31.10.28	H28.10.29 教育長就任
委 員	成田 信一郎	H27.12.18 ～ H31.12.17		H28.10.29 教育長職務代理者就任
委 員	小 西 祐	H28.10.29 ～ H32.10.28		H20.10.29 就任
委 員	貴 田 範 子	H27.7.13 ～ H30.7.12		H23.7.13 就任
委 員	竹 内 初 男	H25.12.25 ～ H29.12.24		H24.9.19 就任

2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、毎月1回「教育委員会定例会議」を開催し、必要に応じて臨時会を開催している。平成28年度は定例会を12回開催し、臨時会の開催はなかった。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第13条及び「大鰐町教育委員会会議規則」の規定に基づき、平成28年度は以下の案件について審議及び報告事項による確認を行なった。なお、定例会では教育長に関わる業務内容を毎回報告し、教育委員間で認識の共有化に努めている。

開催日	件名
第1回 定例会 4月11日	報告事項1 業務報告 報告事項2 平成28年度大鰐町教育委員会事務局職員名簿について 議案第1号 大鰐町立小学校及び大鰐中学校の職員の服務等に関する規程の一部改正について
第2回 定例会 5月9日	報告事項1 業務報告 議案第2号 生きる力育成事業補助金交付要項について 議案第3号 大鰐町遠距離通学費支給要綱について
第3回 定例会 6月6日	報告事項1 業務報告
第4回 定例会 7月6日	報告事項1 業務報告
第5回 定例会 8月5日	報告事項1 業務報告 議案第4号 大鰐町社会教育施設管理規則の一部を改正する規則について
第6回 定例会 9月5日	報告事項1 業務報告 報告事項2 平成27年度教育委員会点検評価報告書

開催日	件 名
第 7 回 定例会 1 0 月 3 日	報告事項 1 業務報告
第 8 回 定例会 1 1 月 7 日	報告事項 1 業務報告 教育長職務代理者選任について
第 9 回 定例会 1 2 月 5 日	報告事項 1 業務報告 議案第 5 号 大鰐町教育委員会事務局の組織に関する規則の一部を改正する規則 について
第 1 0 回 定例会 1 月 6 日	報告事項 1 業務報告 議案第 6 号 大鰐町立学校医、学校歯科医及び学校薬剤師に関する規則の一部を 改正する規則について
第 1 1 回 定例会 2 月 3 日	報告事項 1 業務報告 報告事項 2 大鰐町教育委員会公印規程の一部を改正する訓令について
第 1 2 回 定例会 3 月 6 日	報告事項 1 業務報告 報告事項 2 平成 2 8 年度学校教育活動表彰について 報告事項 3 平成 2 8 年度文化活動表彰について 報告事項 4 平成 2 8 年度スポーツ賞・スポーツ奨励賞表彰について 報告事項 5 平成 2 8 年度退職教職員表彰被表彰者の選考について

3 教育委員の行事等参加状況

教育委員会は、教育委員会会議のほか、学校行事及び研修会等に参加している。

期 日	行事・研修会等	場 所	参加委員
平成28年 4月6日	南地方市町村教育委員会連絡協議会総会	黒石市	全委員
4月7日	大鰐町立大鰐小学校及び中学校入学式	各学校	全委員
4月26日	大鰐町教職員全員研修会	大鰐中学校	全委員
5月22日	大鰐小学校運動会	大鰐小学校	全委員
5月27日	大鰐中学校運動会	大鰐中学校	全委員
6月27日	前期学校訪問（大鰐小・大鰐中）	各学校	全委員
7月14日	社会を明るくする運動	大鰐中学校	全委員
7月26日	青森県市町村教育委員会連絡協議会定時総会・研修会	青森市	全委員
8月11日	大鰐町成人式	中央公民館	全委員
9月21日	南地方市町村教育委員会連絡協議会秋季研修会	西目屋村	全委員
11月26日	後期学校訪問（大鰐小・大鰐中）	各学校	全委員
平成29年 2月9日	大鰐小学校スキー大会	大鰐スキー場	全委員
3月11日	大鰐中学校卒業式	大鰐中学校	全委員
3月17日	大鰐小学校卒業式	大鰐小学校	全委員
3月22日	大鰐町教育委員会顕彰式	中央公民館	全委員

VII 主要施策の点検・評価

1 学校教育の推進

主 要 施 策	目 的 等	成 果 ・ 課 題 等	評 価
(1)授業の充実	一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等に主体的に取り組み、確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。	【小学校】 T T、町学習支援員等を活用し、個に応じた指導の充実を図るために多様な指導形態を工夫したり、I C Tを積極的に活用することにより、基礎基本の定着に遅れが見られた児童も前向きに学習に取り組めるようになり、全体的な学力の向上に繋がった。 「学習の約束」を低中高学年で決めて、学習習慣の定着を図った。総じてどの学年も落ち着いて学習に取り組んでいた。	A
		【中学校】 確かな学力を身に付けることが、大鰐中学校の学校課題の一つであるにとらえ、まず、N R Tの経年比較や全国学力・学習状況調査などの結果を分析し、正確な実態把握に努めた。その結果を踏まえ、ねばり強く学習に取り組み、豊かに表現できる生徒を育成することをねらいとして、グループでの教え合いを継続するとともに、授業における言語活動を充実させ、学習内容を定着させるために、各教科でワークシートを工夫し効果的に使う方法を研究し、一定の成果をあげることができた。	B
(2)道徳教育の充実	一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を具体的な生活の中に生かし得るよう、道徳性の育成に努める。	【小学校】 道徳の時間において、読み物資料の活用を中心として、資料の精選、発問の工夫をするなど、児童の内面に根ざした多様な学習活動の工夫がなされている。 課題として道徳教育の実践について、更に家庭や地域社会と共通理解を深め、連携・協力していく必要がある。	B

		【中学校】 特別の教科「道徳」への移行を踏まえ、本校では今まで作成していなかった別葉を、道徳推進教員を中心に全教員で1年かけて作成した。教科をはじめ本校の行事など全ての教育活動との関連を整理したことで、「考え、議論する」道徳に向けて重要な点が整理された。また、郷土愛を育むため地域のボランティア活動への参加を奨励しており、盛んであるということで町社会福祉協議会から表彰された。	B
(3) 特別活動の充実	一人一人の子どもが、望ましい集団や豊かな体験の中で互いの個性を認め合い、協力してよりよい生活や人間関係を築いていくことができるよう、自主的、実践的な態度の育成に努める。	【小学校】 「思いやりを育む安心できる学校づくり」の研究指定を受けたこともあり、アセス（学校環境適応感尺度）を活用し児童の実態把握を行い、望ましい人間観づくりに取り組んだ。 また、縦割り班での清掃を行ったり遠足を縦割り班で行うなど、学年を超えての交流の場を設定したことにより異学年で遊ぶ姿がよく見られようになった。思いやりを感じられる場面が増えてきた。	A
		【中学校】 望ましい人間関係をつくりよりよい集団生活を営むために、学校行事では連帯感を高める活動を意識して取り入れてきた。7月と12月のアセスの結果を比較すると、特に1年生で向社会的スキルの意識が下降している。今後はコミュニケーション能力や社会的スキルを身に付けさせるため、ソーシャルスキルトレーニングに全校で取り組む予定である。	B
(4) 体育、健康教育の充実	一人一人の子どもが、全生涯にわたり自ら進んで運動に親しみ、健康・安全で活力のある生活を送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら心と体を一体として捉え、健康でたくましい体を育む教育の推進に努める。	【小学校】 様々な学習カードを活用し、運動の楽しさや喜びを味合わせるように工夫した。また、マラソンや縄跳びについては、がんばりカードを全児童に配布し意欲付けを図った。目標であるグラウンド100周を達成する児童が前年に比べて増えた。 食に関する指導においては、昼の放送や保健だよりを活用しながら食への関心を高めると共に食中毒や感染症の未然防止も含めて食に関する正しい知識の啓発に努めた。	A

		【中学校】 進んで運動に参加し健康な学校生活を営めるよう、多様な運動を系統的に体験させ、体を動かすことの習慣化を図るよう努めた。また、食に関する指導の全体計画と年間計画を策定し、1学年の家庭科と連携し食育の指導を行った。	B
(5) 生徒指導の充実	一人一人の子どもが、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに、問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。	【小学校】 問題行動の未然防止を最優先の課題として、年6回の児童理解会議を開催し全職員で共通理解を図り早期発見・早期対応に当たった。結果として不登校児童はいなかった。 また、下校時の安全を確保するために、定期的に見回りをし事故防止に努めた。幸い大きな事故の発生はなかった。 ただ、いじめと認知し指導した事案もあり、いじめに対する指導体制を強固にする必要がある。	B
		----- 【中学校】 青森県教育委員会から「思いやりを育む安心できる学校づくり実践事業」の研究校に指定され、アセスを実施して生徒の学校不適応感の把握に努めてきた。その結果、被侵害的關係（無視やいじわるなど、拒否的・否定的な友だち関係がないと感じている程度）の数値は全国平均より高く、また後半の方が高いので、いじめや否定的な友だち関係は少ないことが分かった。生徒へのアンケートや生徒理解のための教育相談を行い、いじめや問題行動の未然防止及び早期発見早期解決に努めてきたことによると思う。また、外部講師を招いて年2回アセスの研修を行い、読み取り方と対策の立て方を研修した。 不登校やいじめ発生の事案があるが、全職員で早期発見早期対応を図っている。	B

(6)キャリア教育の推進	一人一人の子どもが、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質、能力、態度の育成に努める。	【小学校】 教育活動全体をキャリア教育の視点で捉え直し、体系的にキャリア教育を実践するようにしていた。進んで働く態度の育成においては、係活動や委員会活動、更にはOH !! 鰐元気隊キッズ隊の活動等を行っている。特にOH !! 鰐元気隊キッズ隊の活動は地域に根ざしたものであり将来に生かせるものと期待している。	B
		【中学校】 日常的に汎用的能力の育成に心がけているが、特に学級活動や総合的な学習の時間での進路学習と、1年生のふるさと体験学習や2年生の職場体験活動を関連させることで、キャリアプランニング能力を高め、進路実現に向けて努力する態度の育成に努めた。また、経営者を招いての進路講話を実施し、その様子は新聞にも掲載された。	B
(7)特別支援教育の充実	発達障がいを含む障がいのある子どもが、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善、克服するとともに、その持てる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。	【小学校】 全教職員の理解のもと、学校全体で支援する体制づくりができた。また、特別支援学級の担任同士が常に連携をし教育活動を進めており、特に運動面での効果を上げている。 通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童について、今後個別の指導計画を作成し指導することが求められる。	A
		【中学校】 小学校との情報交換をよく行い、保護者との連携を図りながら、指導や支援に努めた。また、特別支援学級に在籍する生徒だけではなく、通常の学級に在籍する発達障害の傾向がある生徒についても個別の指導計画を作成し、校内で共通理解した。課題は保護者との意識の差をいかに小さくするかである。さらに、小学校の特別支援学級との合同学習も毎年行っている。	B

(8)環境教育の推進	一人一人の子どもが、環境と人間とのかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。	【小学校】 学校と家庭、地域社会が連携しながら資源回収の活動や学区の清掃活動を行い、環境に対する意識を高める取組を行った。 今後は、環境教育で学んだことを家庭や地域社会の中で生かすことを通して、環境問題の解決に向かう態度や行動力を身につけさせる必要がある。	B
		【中学校】 郷土を愛する気持ちを育てるよう、町と連携して入学記念のつつじ植樹を行っており、50年継続してきた。全校での町内環境美化運動など、体験学習を中心として、中学生の実態に合った環境教育に取り組んだ。	B
(9)国際化に対応する教育の推進	一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。	【小学校】 外国人とコミュニケーションできる基礎的な能力や態度に育成を図ったり、体験的に異文化に触れさせたりするために、町のAETや国際交流員の訪問を活用して学ぶ機会を設定している。 今後は、教員の基礎的英語力を向上させるために、校内研修等の場を設定する必要がある。	A
		【中学校】 校内に常勤のAETがいる恵まれた環境にある。生徒は英語の時間はもちろん休み時間や総合文化部の活動など日常的にAETと接している。この環境を生かすとともに、ふるさと体験学習など郷土学習と関連させることで、国際理解教育に取り組んだ。	B
(10)情報化に対応する教育の推進	一人一人の子どもが、情報活用能力を身に付けることができるよう、情報モラルにかかわる指導の充実を図り、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。	【小学校】 情報収集したり、体験や学習したことをまとめたりするためにコンピュータ、実物投影機、電子黒板等ICT機器を活用した学習活動が増えている。 情報モラルに関する指導については、家庭や地域社会と連携した取り組み、特に家庭へより一層啓発していく必要がある。	B

		【中学校】 技術科の授業でパソコンを活用するICT教育に取り組んでいる。ただし、技術科の専科教員がいないので十分とは言えない。ICT教育機器の整備も課題であるが、スマホ等利用による生徒指導上の問題も懸念され、今後は情報リテラシーや情報モラルに関する指導の必要性を感じている。全教職員に業務用パソコンが配備されれば、情報教育の一助となるであろう。	C
(11) 研修の充実	教職の専門性を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・積極的な研修の推進に努める。	【小学校】 低中高ブロックを編成し、研究主題に基づいて全学級における授業公開を行った。また、ワークショップ型の協議会を行うことによって活発な意見が交わされ意欲的に学び合う教員の姿が見られた。 今後も教職員に求められる資質や能力を身につけさせるために、内容、時期、回数等に留意し研修計画を工夫する必要がある。	A
		【中学校】 青森県教育委員会から「思いやりを育む安心できる学校づくり実践事業」の研究校に指定されたことで、年2回外部講師を招いて研修会を行った。また、言語活動を充実させ、学習内容を定着させるために、各教科でワークシートを工夫し効果的に使う研究主題に沿った授業を、全教員が指導案を作成して行うとともに、集中授業では全員で協議し指導主事から助言していただいた。研究主題についての1年間の成果は研究紀要にまとめ報告した。さらに、年1回は校外での研修を積極的に受けるよう奨励している。	A

2 社会教育の推進

主 要 施 策	目 的 等	成 果 ・ 課 題 等	評 価
(1)学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	青少年の体験的活動の充実に努める。	ふるさと子ども教室において、学校教育内での実施が難しいねぶた笛教室や陶芸教室を地域の指導者により実施した。また、学校教育外においてもアルペンスキー教室を開催し、体験活動の充実に図った。 各教室の内容が例年通りとなっていることから、近隣自治体やその他からの情報収集を行い、新たな内容を検討しなければならない。	A
	地域が支えるキャリア教育の充実に努める。	小学生による、東京都内にある青森県のアンテナショップでの地場産品売り込みなど、販売・宣伝活動等の体験を通じて流通や様々な仕事の存在に気付かせることができた。 補助金の限度により、一部児童のみの参加となってしまうことから、近県や修学旅行においての実施によって、できるだけ多くの児童が参加できるよう検討が必要である。	B
	子どもの読書活動の充実に努める。	町読書推進計画の計画期間を前倒して導入された図書管理システムにより、小中学校においては児童生徒の読書状況の確認や、人気や興味のある図書を容易に確認することが可能となり、教員の選書の一助となっている。また、利用件数の多い図書の傾向を知ることにより、決められた予算で利用率が高くなると思われる図書を選書して購入することが可能となった。 就学前の子どもの保護者の図書室利用が増加してきていることから、公民館図書室の子ども向け図書の充実に図っていかなければならない。	A

	地域全体で子どもを育む活動の充実に努める。	地域指導者による小中学校での出前俳句教室を開催し、放課後子ども教室においてはサポーターの増強を図っており、地域人材の発掘と地域で子どもを見守り・育てる活動の充実に努めた。 既存と新規、それぞれのサポーターの協力関係の構築を支援し、後継者育成の推進を図り、年齢や世代を超えた地域による子育ての充実に目指したい。	B
	家庭教育支援の充実に努める。	放課後子ども教室の実施により家庭学習の習慣化に努めてきた。放課後子ども教室を支援してくれるサポーターには週に複数回の支援をしていただける方も増加してきており、安定的な家庭学習の支援が可能となってきた。 子どもたちの習慣化についてある程度の定着が見られてきたことから、今後は保護者へ子どもの現状と家庭教育大切さを理解してもらうために、町家庭教育講座等の機会を設けていきたい。	A
(2) 活力ある地域コミュニティの形成に向けた人材の育成	地域活動の実践者の育成に努める。	大鰐町青少年健全育成連絡協議会による民間交番、『鰐っこ安心ステーション』の運営管理により、児童生徒の安全安心と地域で子どもを見守る町づくりを推進することができた。また、小学校統合による児童の登下校時の安全を確保するため、駅前から小学校前まで3名、下校時のみ小学校から総合福祉センターまで2名を常時配備し、その他、登下校時の交通安全指導員による事故防止活動を行った。 今後は交通安全指導員の増員と活動範囲の拡大を目指したい。 町内スキー場で開催されるスキー大会には毎回ボランティアの手伝いをいただきながら実施してきたが、ボランティアの高齢化が進んでいるため、次代の育成が必要である。	A

	地域活動の指導者、コーディネーターの養成に努める。	地域活動を活発に行っている団体の代表者や個人からの問い合わせにいつでも相談を受け、地域活動の実施に対する不安等の解消に取り組み、将来のコーディネーター候補の育成に取り組んだ。教育委員会主体の実績としては結果を見ることができなかったものの、実施主体団体（町民が運営委員として活動）及び関係者より初期段階から相談を受け、町内各関係団体との調整等の支援を行った。 積極的な活動を行う団体及び個人への支援に力を入れ、指導者及びコーディネーターの育成に努めたい。また、教育委員会主体での事業運営に積極的に参加してもらえよう働きかけていきたい。	A
	地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援に努める。	平成２７年度に引き続き、可能な限り地域住民の講師活用を行った。現在新たな人材育成を図っていることから、今後は新たな人材を含めたネットワーク構築と拡大に努めたい。	B
(3)一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	関係機関との連携による多様な学習活動の支援に努める。	成人大学・ふるさと子ども教室・放課後子ども教室・俳句教室等において、役場やその他機関からの協力を得て講師派遣等を受けた。 各団体からの支援拡大等協力を受けながら学習活動機会の拡充に努めたい。また、町の現状を知る機会が少ないとの声が寄せられたことから、平成２９年度においては町の情勢を知ることができる機会を設けていきたい。	B
	学習成果を生かした社会参加活動の支援に努める。	成人大学では俳句教室やグラウンドゴルフ体験等を実施し、俳句大会への参加やニュースポーツフェスティバル大会への参加等につなげることができた。 より多くの町民が学習成果を発揮できる場所を発掘し、積極的な社会参加活動を推進していきたい。	B

(4) 社会教育推進のための基盤整備	社会教育推進体制の充実に努める。	町社会教育行政の方針と重点及び、各事業参加者からの意見を聞き実施内容の調整や内容変更を実施してきた。社会教育実践者の発掘や育成に力を入れ、町社会教育推進体制の充実に図りたい。また、点検評価委員会からの評価など指摘事項の改善に早急に対応・改善できる体制確立をしていきたい。	B
	社会教育施設の機能の充実と活用の促進に努める。	図書管理システムの導入により、特に土日祝祭日の図書貸出件数や、町外からの蔵書問い合わせ件数が増加し、町内外での施設利用が図られている。また、役場各課における事業での公民館開放により、高齢者や子どもたちのスポーツ活動に関する団体の会議など、公民館の理想の姿と思われる世代を超えた施設利用がされてきている。 今後においても積極的な公民館施設の開放や利用促進活動を図り、地域に根ざした来館しやすい公民館の実現を目指していきたい。	A
	社会教育関係職員の養成と資質の向上に努める。	社会教育関係事業に関する各種会議や研修会に積極的に職員派遣を行った。 町職員の社会教育主事資格所持者の定年退職や管理職登用による発令不可職員の増加を考慮し、計画的に社会教育主事講習を受講させ社会教育主事資格所持者を確保していきたい。	B
	社会教育関係団体等の活動の支援に努める。	社会教育関係団体が行う活動に可能な限りの職員派遣等の支援活動を実施した。 社会教育団体の活躍の場が広がる中、一部の団体で活動資金不足等の問題が起きている。このことから、各団体の事業内容について精査する必要があるとともに、教育委員会内部において共通した認識のもと、公平な支援策を講ずることが必要と思われる。	B

3 芸術文化の振興と文化財の保護活用

主 要 施 策	目 的 等	成果・課題等	評価
(1) 文化財の保護・保存	文化財を次代に伝えるため、適切に管理し、保護・保存に努める。	温泉やスキーの町として栄えた大鰐町の次代に伝える文化財を保護することを目的として、平成29年2月10日付で、文化庁宛にヤマニ仙遊館の国登録有形文化財の候補物件としての申請を行った。所有者菊池氏から平成27年度より担当職員が相談を受けてきた案件であった。平成28年8月29日には文化庁より調査官の派遣を受けて調査を実施し、平成29年7月末から8月中には結果が出る見通しとなっている。 大鰐町では国登録は初となるが、国・県・町の種別によらず、次代に残すべき大切なものを積極的に登録していきたい。	A
(2) 文化財の公開・活用	文化財に興味・関心を持ち、親しめるよう、公開・活用と情報発信に努める。	町で唯一の県指定文化財である『三ツ目内獅子（熊）踊』を町内外に知ってもらうため各所において行われるイベント等への出演紹介等を積極的に行った。三ツ目内地区だけでの公開・活用では将来的存続が危ういことから積極的に支援を行うこととなった。 平成29年度においては羽黒神社で行われる宵宮への出演についても、保存会が積極的に検討しており、青森県無形民俗文化財指定の通り、『地区の文化財』から『青森県の文化財』への昇華が期待される。今後も積極的に公開の場の情報提供を行っていきたい。	A

(3) 伝統芸能・技術の継承	保存・伝承されてきた伝統芸能や技術の継承に努める。	特に後継者不足に悩まされている伝統芸能関係団体において、地域内外を問わず継承者を広く受け入れて後継者育成に取り組んでもらえるよう要請した。また、町外の同様な団体と交流・情報交換等ができるよう陰ながら働きかけを行った。 町外の同様な団体における継承活動の状況を知ってもらい、継承活動の促進を図っていきたい。また、各団体の伝統芸能継承精神を一層高めるよう支援していききたい。	A
----------------	---------------------------	---	---

4 生涯スポーツの振興

主 要 施 策	目 的 等	成果・課題等	評価
(1) 学校体育・スポーツの充実	健康保持増進と体力の向上を図ることができるよう、学校体育・スポーツの充実に努める。	地域の特色あるアルペンスキー・クロスカントリースキーについて、親しみ・楽しめるよう、学校体育での指導及び小中学生に無料リフト券を配布することにより、体育・健康教育の振興を図ることができた。	A
(2) 健康教育の充実	学校保健、学校における食育及び学校安全を総合的に推進し、健康教育に努める。	町学校給食センター栄養士及び学校担当教諭が連携しながら、地元の食材や特産品を使用しながら、地産地消の食育活動を行うことができた。 食材やメニューの工夫を行い、地元の食材をより多く活用し、児童・生徒の地元へ興味を高めつつ、食物アレルギーの回避などの安全確保をより一層図って行きたい。	B
(3) スポーツの振興	スポーツに親しむ環境づくりと競技力を向上させる環境づくりを推進し、スポーツの振興に努める。	スキー競技については、全国規模の大会を3年間実施したことにより環境が十分に整えられているが、今後の整備の在り方やニュースポーツを行う環境についても常設グラウンドゴルフ場や旧スキーセンタープラザなどが存在するが、施設の老朽化や公共交通機関の観点から気軽に活動できるようにしていく工夫が必要である。 また、アスリートクラブが小中学生の陸上競技やクロスカントリースキー競技を指導し、大きな成果をあげている。今後もできるだけバックアップをしていきたい。	B

Ⅷ 平成28年度 主な事業と経費及び成果等

事業名	区 分	決算額 (千円)	事 業 内 容	成 果 等												
部活動補助金		4,524	大鰐町の小学校及び中学校における部活動等の充実及び発展を図るため、児童生徒が選手として対外競技会等に参加するために要する経費に対する補助をするほか、必要に応じて備品の購入に係る費用も補助している。 <table><tr><td>小学校</td><td>2,508,840円</td></tr><tr><td>中学校</td><td>2,015,592円</td></tr><tr><td>計</td><td>4,524,432円</td></tr></table>	小学校	2,508,840円	中学校	2,015,592円	計	4,524,432円	部活動補助金（小中）、教育活性化助成金（小）、文化活動補助金（中）の3事業が統合され、部活動補助金となった。 大鰐小学校マーチング部の全国大会や大鰐中学校スキー部の全国大会の大会派遣費を補助したことにより、他県の学校との交流や大舞台での経験など、貴重な体験をさせることができた。						
小学校	2,508,840円															
中学校	2,015,592円															
計	4,524,432円															
幼稚園就園事業		0	私立幼稚園に通わせる費用の一部を国と町が補助することで、保護者の経済的負担の軽減と地域の幼稚園教育促進を目的としている。 国補助1/3、町2/3	幼稚園に子供を通わせている保護者の経済的負担軽減と地域における幼稚園教育の促進に寄与している。子ども子育て新制度に移行していない私立幼稚園が対象となるが、該当する園児はいなかった 【平成28年度実績】 補助金の交付対象者 0人												
生きる力育成事業		1,383	「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」などの「生きる力」を育むために、決められた予算内において学校長の裁量で自由に予算を執行できる。 <table><tr><td>大鰐小</td><td>792,000円</td></tr><tr><td>大鰐中</td><td>591,000円</td></tr><tr><td>計</td><td>1,383,000円</td></tr></table>	大鰐小	792,000円	大鰐中	591,000円	計	1,383,000円	小学校においては、地域の伝統文化を含む郷土学習や家庭学習の習慣化に組み込み基礎学力の定着に効果を発揮した。また中学校においては、受験対策の教材を効果的に使い、学力向上が図られた。						
大鰐小	792,000円															
大鰐中	591,000円															
計	1,383,000円															
AET招致事業		4,749	【平成28年度実績】 <table><tr><td>人件費</td><td>4,517,369円</td></tr><tr><td>需用費</td><td>49,087円</td></tr><tr><td>住宅借上</td><td>78,809円</td></tr><tr><td>負担金</td><td>97,180円</td></tr><tr><td>他</td><td>6,160円</td></tr><tr><td>計</td><td>4,748,605円</td></tr></table>	人件費	4,517,369円	需用費	49,087円	住宅借上	78,809円	負担金	97,180円	他	6,160円	計	4,748,605円	中学校にAETを配置することによって、生きた英語を体験することができた。また小学校に派遣することによって英語に親しみ、中学校からの英語教科にギャップなく取り組めるようになった。また、外国の習慣など、国際感覚を身につけさせることができた。
人件費	4,517,369円															
需用費	49,087円															
住宅借上	78,809円															
負担金	97,180円															
他	6,160円															
計	4,748,605円															

事業名 / 区 分	決算額 (千円)	事 業 内 容	成 果 等
スクールバス運行事業	13,091	旧長小方面 9,579,600円 旧二小方面 2,820,096円 部活バス等 691,560円 計 13,091,256円	小学校統廃合により、遠方から通学する児童のためスクールバスを運行し、旧第二小・旧長峰小児童の安全な登下校を確保することができた。 また、平成28年10月から島田・早瀬野方面においても町直営のスクールバス（患者バス）を運行している。
小学校改修事業	4,890	フェンス補修1,026,000円 駐車場舗装 874,800円 校庭照明設置1,285,200円 防犯カメラ 486,000円 灯油タンク更新259,200円 トイレ改修 959,040円 計 4,890,240円	学校施設・設備等の改修工事等を実施することにより、学校施設等の適正な維持管理が図られた。 また、中学校に洋式トイレ及び多目的トイレを設置を満たすとともに避難所や町民体育館としてさらに利用しやすい環境となった。
中学校改修事業	44,164	駐車場舗装 26,848,800円 防犯カメラ 529,200円 来賓トイレ 820,800円 体育館トイレ 712,800円 生徒トイレ 1,890,000円 多目的トイレ2,840,400円 駐車場白線引 165,240円 A棟屋根改修9,558,000円 滅菌機設置 799,200円 計 44,164,440円	
小学校扶助費	7,060	就学援助費・特別支援就学奨励費 学用品費等 1,544,194円 給食費 2,152,500円 医療費 4,200円 小計 3,700,894円 遠距離通学費3,359,040円 合計 7,059,934円	就学援助費・特別支援就学奨励費 経済的理由により、就学困難な児童生徒の保護者及び特別支援学級で学ぶ児童生徒の保護者等に対し教育を受けるうえで必要な学用品費や学校給食費の扶助をしたことで、義務教育の円滑な実施がなされた。 【扶助対象者】 小学生 46名 中学生 46名 遠距離通学費 遠距離地域から通学する児童生徒の保護者に対し、通学費の全額または一部を扶助したことで、保護者の経済的負担の軽減と義務教育の円滑な実施がなされた。
中学校扶助費	6,868	就学援助費・特別支援就学奨励費 学用品費等 3,470,063円 給食費 2,227,950円 医療費 0円 小計 5,698,013円 遠距離通学費1,169,520円 合計 6,867,533円	遠距離地域から通学する児童生徒の保護者に対し、通学費の全額または一部を扶助したことで、保護者の経済的負担の軽減と義務教育の円滑な実施がなされた。 【扶助対象者】 小学生 88名 中学生 28名

事業名 / 区 分	決算額 (千円)	事 業 内 容	成 果 等
生涯学習推進事業	379	生涯学習だより 成人大学 ふるさと子ども教室 成人式等各種事業の実施	社会の変化やライフステージに即した事業及び子どもたちが地域文化に触れる機会を設けた事業を展開し、町民一人一人が主体的に学ぶ学習機会の提供を行った。
俳句の街づくり 推進事業	216	大鰐温泉俳句の街づくり 実行委員会補助金 216,000円	俳句大会を実施し、町名誉町民第1号である増田手古奈氏の功績を称え、偲んだ。県内外からの投句も多く、町観光の一翼を担っている。
生涯スポーツ推進 事業	864	生涯スポーツ推進・普及のため、スポーツ推進委員を各種大会への派遣し指導を行った。また、旧スキーセンタープラザをニュースポーツ広場として毎週土曜と日曜に開放した。	スポーツ推進委員の各種団体への講師や審判の派遣を行っている。また、例年開催しているニュースポーツフェスティバルでは約30名の一般町民が参加された。スポーツ振興に尽力している。
図書購入事業	455	図書購入費 454,689円	児童書及び一般書、生活関連雑誌等を購入し、町民の利用に供することができた。
公民館改修事業	464	図書室仕切り腰壁修繕他 施設修繕料 464,400円	公民館の消防点検時に指摘された図書室仕切り腰壁及び陶芸室非常照明などの改修や公民館の景観を損なっていた屋上外壁の改修も行い、施設を利用する方の安全を確保できた。
放課後子ども教室 推進事業	1,355	放課後子ども対策事業(補助率 国1/3 県1/3) 教育支援サポーター(旧安全管理員)、コーディネーター謝金等	中央公民館、旧第二小学校、湯野川原社会福祉館で実施し、平成25年度より中央公民館教室では休館日である月曜日も開催。放課後における子どもの安全・安心な居場所づくりと有益な余暇活動のための放課後子ども教室を開催することができた。
各体育団体補助金	17,323	町体育協会 978,000円 県民駅伝競走大会 485,000円 各種スキー大会 292,000円 インカレ 15,567,939円 計 17,322,939円	社会体育においては地域間の交流や関係者の健康意識の高揚が見られた。平成29年2月に行われた、第90回全日本学生スキー選手権大会においては、約2,100名の選手関係者が来町し、盛大成功裏に大会が実施された。

事業名	区 分	決算額 (千円)	事 業 内 容	成 果 等
スキー大会用備品整備事業		5,294	ピステンブーリー用 3 連 トラックセッター 4,644,000円 ローラーコンパクター <u>X E 1205 650,000円</u> 計 5,294,000円	第 9 0 回全日本学生スキー選手権大会を行う際に、クロスカントリー競技を行うため、コース上の伐木作業や整備や大会期間中にクロスカントリー競技本部となる管理棟の安全確保のため塗装修繕を行い、無事大会を終えることができた。
スキー大会用施設整備事業		815	クロスカントリー管理棟修繕 198,612円 クロスカントリーコース整備 <u>616,000円</u> 計 814,612円	第 9 0 回全日本学生スキー選手権大会を行う際に、クロスカントリー競技を行うため、コース上の伐木作業や整備や大会期間中にクロスカントリー競技本部となる管理棟の安全確保のため塗装修繕を行い、無事大会を終えることができた。
スキーリフト使用料補助事業		505	(延べ人数) 小学生 319人 303,050円 中学生 144人 201,600円 <u>計 463人 504,650円</u>	町内の小中学生に対して、スキーリフト 1 日券を 5 日分配付することにより、スキーに親しむ機会を増やし、楽しみながら健やかな体を育むことができた。また、地域の特色であるスキーを活かし、日常から運動に親しみ、健康の推進を図ることができた。

IX 評価委員による点検・評価

【教育委員会会議について】

毎月の定例会が開催され、概ね適切に議論がなされている。会議では定例の業務報告のほか、関係する規則・規定の改正についても適宜報告されている。また、小学校や中学校の入学式・運動会等の行事に、教育委員全員が参加していることも評価できる。

【学校教育の推進について】

教育課程条件の変更に対応したり全国的に生じている「いじめ」・「不登校」等に対応する上で、教員の力量向上が必要とされている中で、小・中学校のいずれにおいても「研修の充実」において成果をあげていることが評価される。また、小学校の統合による生徒数増加が、スポーツの全国大会出場の一因となったことも確認した。今後も、授業や生徒指導の充実を図るとともに、保護者と連携・協同し児童生徒の家庭での自律的学習の充実を追求していただきたい。

【社会教育の振興推進について】

新たに図書管理システムが導入されたことにより、住民がネットを利用して蔵書検索することが可能になるなど、大きな成果を上げている。また、「家庭教育支援」や「地域活動の実践者の育成」、「社会教育施設の機能の充実と促進」等の項目でも大きな成果を上げている。

今後も、地域住民と連携・協同を推進し、社会教育団体の担い手を含め地域活性化に取り組む「人材の発掘」、や「スキーのまち大鰐」にふさわしい「人材育成」を図っていただきたい。

【文化財の保護活用について】

「文化財保護・保存」や「文化財の公開・活用」、「伝統芸能・技術の継承」という項目では、いずれも大きな成果を上げている。地域に存在する文化財を「国登録有形文化財」として登録するための取り組みや、『獅子踊』の保存を図るために出演する機会を増やすねらいで町外にPRする努力、広く地域内外で伝統芸能の担い手を育むようにという働きかけなどは、今後も意識的に追求していただきたい。

【生涯スポーツの振興について】

「学校体育・スポーツの充実」という項目では、小学校や中学校において大きな成果を上げている。今後は、「食育」への取組とともに、スポーツによる「健康寿命」、あるいはスポーツを通じた「仲間づくり」や「社会参加」の取り組みをより多くの町民の中で広めていただきたい。